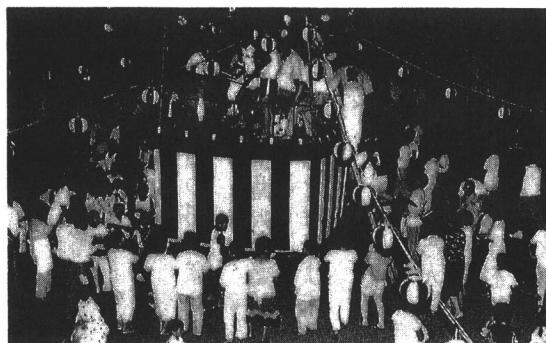


- 10 お月様さえ夜遊びなさる わしの夜あそびごめんなれ
 11 街道唄で通る流しきべきれば ある水なげてもくみに出る
 12 恋にこがれてなくせみよりも なかぬ螢が身をこがす
 13 土手のかえるのなくのも道理 見ずにおわすにおられよか
 14 ほれて見るせか乱れた髪も 金のようらくさげたよだ
 15 雪も降ります氷もはるが 人の心はあたたかい

そ の 他

チヨイラッショ一



盆踊り

〔上川内〕

盆 歌

へ盆の十六日踊らぬものは 猫かねずみかお稻荷様か
 へ踊り踊らばしなよく踊れ しながよければ嫁に取る
 へどんとどんと太鼓がひびく あれは川内お諏訪様
 へそろた踊子数ある中に 一人悲しき人がある
 へ咲いた桜になぜ駒つなぐ 駒がいさめば花が散る
 へ花はよければ山吹の花 浮氣で咲く氣か実が成らぬ
 へすいた水仙しだれた柳 心白菊気が紅葉
 へ思い直して添う気はないか 鳥も枯木に二度とまる
 へ妾は奥山一重の桜 八重に咲く氣は更にない